

学校自己評価についてのまとめ

(1) 分掌ごとの取組

① 「わかる授業により学力の定着を図る」取組

※【教務課、学科】で取り組んだ。

今年度、校内公開授業は13回、校内研修回は2回実施され、相互授業参観が活性化された。また、その反省会も実施され、多くの教員が参加した。

学校自己評価アンケートの生徒質問項目「わかりやすい授業が多い」に対して57.2%（前年47.8%）が肯定的な評価であった。

専門学科においても実習と座学の効果的な連携によって、生徒の学習に対する興味・関心を引き出し、理解度を高める授業改善がなされた。また、総合実習の教材化も進められた。

次年度はアクティブラーニング型学習方法を基軸とした授業改善を行い、主体的・協働的な学びをとおして生徒の学力の定着を図る。

基礎力診断テストのD3ゾーンの比率が68%（前年78%）である現状を改善することが次年度に向けた課題であり、継続して授業改善や基礎学力向上のための取組を継続していく必要がある。

② 「自主自立の育成と社会性の確立に取り組む」取組

※【生徒課、厚生課、学科】などで取り組んだ。

「全教職員が一致協力した生徒指導体制である」70.5%（前年68.4%）「授業中の携帯電話の使用は見られなくなった」（評議員評価）「自分は社会のルールやマナーがまもれている」生徒77.7%教員14.8%「学校は安心して生活できる」生徒70.5%（前年61.5%）など、生徒の学校生活の様子はやや落ち着きがみられる。授業態度、集会での様子もやや改善し、学校生活に「充実感や満足感がある」生徒62.5%保護者73.4%（前年生徒55.2%保護者82.9%）となっている。

しかしながら、特別指導の件数は97件、成績不振による原級留置者は12名という実態もあり、一部の生徒にはさらに工夫した生徒指導、学習指導が必要である。

③ 「専門教育からキャリア教育への連動により生徒の自己実現を支援する」取組

※【進路指導課、学科】などで取り組んだ。

総合学科1年生、グリーン環境科2・3年生、食品科学科2年生はインターンシップを実施し、キャリア意識の向上が推進された。また、長期インターンシップへの参加者は、2年生1名、3年生1名であった。（目標10名以上）

キャリア教育研修会には30名の教員が参加し研鑽に務めたが、3年団や学科、進路指導課、高校生就職アドバイザーによる求人開拓と企業情報の収集と共有のための企業訪問は1月末までに109事業所であった。（目標200社）

学校自己評価アンケートの生徒質問項目「学校は進路決定に向けて充実した指導をしてくれる」に対して68.4%（前年47.8%）が肯定的な評価であった。就職内定率は3月末現在で90.0%となった。

3年生の生徒の進路決定満足度は、61.9%で目標を大きく下回った。内容を分析し対策を講じる必要がある。

④ 「地域社会と連携した教育を推進する」取組

※【学科、進路指導課】などで取り組んだ。

地域連携活動では、生徒たちが日頃身に付けた専門知識や技術を活用できる内容が展開された。事前準備や事後の振り返りを更に充実させることで、生徒たちの主体性を引き出し、次回に向けた活動のレベルアップを図ることができた。

特に今年度は本校の生徒会や農業クラブ、部活動等に所属する生徒たちが中心となって、地域の商工会と連携して地域の祭の企画・立案に参画したことで、祭は大いに盛り上がり、生徒たちの成長も実感することができた。今年度の実践を通じて、学校内に配置している地域連携担当者の中核として、より機動的な校内組織体制の構築が必要であると実感した。

次年度に向けては、更に地元自治体と連携を推進し、地域に根ざした活動やボランティア活動の場をカリキュラムにも効果的に組み込み、系統立てた活動として展開したい。

地方創生を追い風に、勝央町からも高校生の活動は大いに期待されていることを実感できた。

学校自己評価アンケートの生徒質問項目「自分はボランティア活動に積極的に参加した」に対して 45.3%（前年 35.4%）が肯定的な評価であった

⑤ 「教師力」向上を図る。

※【教務課】などで取り組んだ。

教師力向上のため目標とした月 1 回の教員研修は実施できなかったが、アクティブラーニング型授業の研修会やソーシャルスキル教育の研修会をはじめ、授業公開（全教科）、指導教諭研究授業、初任者研修研究授業、県外研修会へ参加した教員はのべ 25 名であり教師力向上に努めた。「わかりやすい授業が多い」と回答した生徒は、57.2%（前年 47.6%）となっている。28 年度は重点事業枠で「基礎学力の定着と自己肯定感の育成に向けた研究」が指定されており、本年度の取組がその契機となっている。

(2) 自己評価アンケートの結果（別紙 2 参照）

職員の指導に対する意識が向上している点、回答いただいた保護者の方からは、信頼感と期待を持っていただいている点が評価できる。

しかし、次の点が大きな課題として浮かび上がっている。

- ① 落ち着いて授業が受けられていない。授業規律が徹底できていない。
- ② 生徒は、授業をわかりやすいと感じていない。
- ③ 家庭学習の習慣が身につけていない。
- ④ 社会のルール、マナー、挨拶・身だしなみ、整理整頓、時間厳守などの指導において、教員と生徒の意識に大きな隔りがある。指導の方法を見直す必要がある。

(3) その他の観点による自己評価（別紙 3、4 参照）

別紙 3 補足資料 学校経営上重要な指標を一覧にした。

別紙 4 1 年生アンケート結果